

## 4-2 行動科学

### 研究・教育活動の概要と特色

1983年に設置された行動科学研究室は、①社会学をはじめ、心理学・言語学・人類学・政治学・経済学など多くの専門分野と対象領域を共有すること、②人間行動や社会現象の解明に科学的方法、とりわけ数理的・計量的方法を適用すること、の2点を掲げ研究・教育を実践してきた。これまでに輩出してきた卒業・修了生は200余名にのぼる。過去5年に関しては、21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点」（2003年度～2007年度）、グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」（2008年度～）、「社会階層と社会移動に関する全国調査」（2005年度）、「家庭廃棄物（ごみ）に対する住民の意識と行動に関する調査」（2005年度～2006年度）、「教育と社会に対する高校生の意識—第6次調査」（2007年度）、など本研究室が推進してきた行動科学的手法をより広く適用、発信する機会に恵まれた。

上記の調査研究プロジェクト等を通じて、教員はじめ、大学院生や学生は、社会階層や環境問題、教育など、さまざまな社会事象に数理・計量的アプローチを試みている。数理・計量的研究の専門家を揃えた講座の研究・教育体制は全国的にも高い評価を得ており、本研究室の創設者である西田春彦教授の描いた「東北に数理・計量社会学のメッカを作る」という夢が現実のものとなりつつある。

なお、2008年3月をもって海野道郎が定年退職した（現在は東北大学教養教育院総長特命教授）が、2008年4月に浜田宏が准教授として就任した。

### I 組織

#### 1 教員数（2008年4月現在）

教授：3

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：原 純輔、佐藤嘉倫、木村邦博

准教授：浜田 宏

助教：本郷正武

## 2 在学生数（2008年4月現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博 士 前期	大学院博 士 後期	大学院 研究生	科目等履修 生
51	2	8	8	0	0

## 3 修了生・卒業生数（2004～2008年度）

年 度	学部卒業者	大学院博士課 程前期修了者	大学院博士課 程後期修了者 (満期退学 者)	博士学位 授与者
04	13	3	1	1
05	13	4	0	0
06	12	6	0	1
07	16	3	0	0
08	(20)	(6)	(1)	
計	54 (20)	16 (6)	1 (1)	2

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2004～2008年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年 度	課程博士授与件 数	論文博士授与件 数	計
04	1	0	1
05	0	0	0
06	1	0	1
07	0	0	0
08			
計	2	0	2

## 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員（2004～2008年度）

神林博史、2004年度、『階層意識とジェンダーに関する計量社会学的研究』

審査委員：教授・原純輔（主査）、教授・海野道郎、教授・佐藤嘉倫、  
教授・鈴木淳子、助教授・木村邦博

三輪哲、2006年度、『後発産業化と階層社会のゆくえ：「社会の開放性」  
に関する計量社会学的研究』

審査委員：教授・原純輔（主査）、教授・海野道郎、教授・佐藤嘉倫、  
教授・鈴木淳子、助教授・木村邦博

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
04	8	2	0	1	11
05	1	0	1	2	4
06	1	2	0	0	3
07	2	11	0	0	13
08	3	3	0	0	6
計	15	18	1	3	37

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学 会	国内学 会	研究 会	その他	計
04	4	15	5	1	25
05	2	15	0	1	18
06	2	10	1	0	13
07	0	23	1	0	24
08	5	6	0	0	11
計	13	69	7	2	91

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

[朝岡誠]

朝岡誠、「誰が「解き放たれる」のか?: エージェント・ベースト・モデル  
による信頼生成メカニズムの検討」籠谷和弘(編)『市民活動の活性化

支援の調査研究:秩序問題的アプローチ』平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書、2008 年

[金澤悠介]

\* Yusuke Kanazawa, “The Promotion and Evolution of Cooperation through Projection: Implications for Social Dilemmas and Trust,” *Journal of Mathematical Sociology*, 31 (2): 187-204, 2007

金澤悠介、「信頼と社会参加に関する地域比較——社会調査による検討」『東北文化研究室紀要』 49: 15-27、2008 年

金澤悠介、「ネットワークと信頼・社会参加についての 3 つの仮説——地域比較による予備的分析」籠谷和弘（編）『市民活動の活性化支援の調査研究：秩序問題的アプローチ』平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書: 133-151、2008 年

金澤悠介、「ネットワークと信頼・社会参加についての 3 つの仮説——個人データによる検討」籠谷和弘（編）『市民活動の活性化支援の調査研究：秩序問題的アプローチ』平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書: 153-170、2008 年

金澤悠介、「社会関係資本と一般的信頼の生成——二つの仮説の経験的検証と新たな仮説の提示」『社会学研究』2008 年

[斎藤謙一]（～2005.3）

\* 斎藤謙一、「集合財としてのごみ集積所管理」『社会学年報』34 巻、2005 年

[佐藤智子]（2007.4～）

\* 佐藤智子・佐々木肇、「釜石市とディーニュ・レ・バン市との姉妹都市交流に関する一考察」『総合政策』第 9 巻第 2 号、pp. 103-125、2008 年

\* 佐藤智子、「地方自治体における姉妹都市交流の継続性の条件」『社会学研究』84 号、2008 年

[塩谷芳也]（2005.4～）

SHIOTANI Yoshiya, “Constructive Image of Occupational Stratification and Status Attainment Orientation.” *Annual Report, 2007. The 21<sup>st</sup> Century Center of Excellence Program, Tohoku University, Center for the Study of Social Stratification and Inequality: 152-157, 2007*

塩谷芳也. 2008. 「ライフストーリーからみる自営業層への参入経路」『文化』第72号2巻. 東北大学文学会. (2008年9月25日に発行予定)

[針原素子] (2005.4～)

針原素子・辻竜平、「ネットワークにおける情報伝播と自己卑下的自己呈示」佐藤嘉倫・平松闊編『ネットワーク・ダイナミックス』、勁草書房、2005年

針原素子・辻竜平、「社会的ジレンマ実験における『移動型トリガー戦略』—心理的個人特性，行動意図からの検討」『秩序問題への進化ゲーム理論的アプローチ』科学研究費補助金基盤研究(B)報告書、2005年

辻竜平・針原素子、「ネットワーク理論から見た野沢温泉の活性化：観光関係者へのインタビューをふまえて」 籠谷和弘編『市民活動の活性化支援の調査研究：秩序問題的アプローチ』（平成17～19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書） p.125-134、2008年

辻竜平・針原素子、「新潟県中越地震におけるパーソナル・ネットワークと一般的信頼の変化——震災前後のパネル調査を用いて」『社会学研究』84号、2008年

[林雅秀] (2007.4～)

林雅秀、「森林所有者の手入れ実施に対する意向分析」林野庁編『森林吸収源目標達成に資する効率的・効果的な森林整備の手法に関する調査報告書』 pp.31-35、2008年

林雅秀、「林家の意欲を向上させる取り組み事例」林野庁編『森林吸収源目標達成に資する効率的・効果的な森林整備の手法に関する調査報告書』 pp.36-57、2008年

[林雄亮] (2005.4～)

林雄亮、「『格差社会』における社会意識——2006年格差と不平等に関する仙台市民意識調査の概要」『東北文化研究室紀要』48号、pp. 1-14、2007年

\* 林雄亮、「現代日本社会における格差意識」『社会学年報』36号、pp. 189-209、2007年

林雄亮、「日本における転職と賃金変化の時代的変遷」佐藤嘉倫編『2005年SSM調査シリーズ15 流動性と格差の階層論』、pp. 83-98、2008年

林雄亮、「現代日本社会の多元的階層システム」佐藤嘉倫編『2005年SSM調査シリーズ15 流動性と格差の階層論』、pp. 153-170、2008年

\* 林雄亮、「労働市場の流動化と世代内移動の帰結——転職に伴う賃金変化構造の時代的変遷」『社会学年報』37号、pp. 59-70、2008年

\* 林雄亮、「現代日本の多元的階層構造」『社会学研究』84号、掲載決定済み、2008年

[堀内史朗] (2004.4~2007.3)

\* Shiro Horiuchi, "A competition model within and across groups explaining the contrast between the societies of chimpanzees and bonobos," *Population Ecology* 46, 2004

\* Shiro Horiuchi, "A competition model within and across groups explaining the contrast between the societies of chimpanzees and bonobos," *Population Ecology* 46, 2004

\* Shiro Horiuchi, "Affiliative relationships among male Japanese macaques (*Macaca fuscata yakui*) within and outside a troop on Yakushima Island," *Primates* 46, 2005

[本郷正武] (2004.4~2007.3)

本郷正武、「ライフコースの重なりが結ぶセルフヘルプ・グループ像——会の継続の契機と『教えること』の伝承」、原純輔編『学術資源学の構想——平成15~17年度科学研究費補助金(萌芽)論文集』、2006年

\* 本郷正武、「ライフコースの重なりが結ぶセルフヘルプ・グループ像——『障害児をもつ親の会』を事例として」『保健医療社会学論集』第17巻1号、pp. 25-37、2006年

本郷正武、「(書評)山田富秋編著、2005年、『ライフストーリーの社会学』」『社会学研究』80号、pp. 271-276、2006年

[三輪哲] (~2005.3)

\* 三輪哲、「社会階層と学歴意識——学歴意識の潜在構造に関する経験的研究」『社会学研究』75号、2004年

\* 三輪哲、「近代日本における教育機会の階層間格差——格差の趨勢的拡大と新中間層の形成」『社会学年報』33号、2004年

三輪哲、「学歴意識の潜在構造にかんする日韓比較分析」『東北文化研究室紀要』第46集、2005年

三輪哲、「父不在・無職層の帰結」尾嶋史章編『現代日本におけるジェンダーと社会階層に関する総合的研究』（科研費報告書）、2005年

[門間由記子]

門間由記子、「新旧住民の混住化におけるガバナンスの課題——仙台市長町の事例から」仙台都市総合研究機構/機関誌『SURF』Vol.6、2004年

\* 門間由記子、「まちづくり組織としての商店街活動——仙台市長町の事例から」日本地域政策学会『地域政策研究』第2号、2004年

\* 門間由記子、「自営業者と伝統工芸産業——ライフストーリー分析を用いて」『社会学研究』第76号、2004年

\* 門間由記子、「商店街の存続可能性——仙台市長町を事例として」『東北都市学会研究年報』Vol.6、2004年

## (2) 口頭発表

[朝岡誠]

朝岡誠・塩谷芳也、「人種集団とアスピレーション——相互作用とアスピレーションのエージェントベーストモデル」数理社会学会大会（広島修道大学）、2007年9月15日

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己高揚・自己卑下的自己呈示のフォーマライゼーションとネットワークモデルの検証」数理社会学会大会（広島修道大学）、2007年9月15日

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己呈示戦略と近隣集団離脱戦略の共進化——エージェント・ベースト・シミュレーションによる検討」日本社会心理学会大会（早稲田大学）、2007年9月22日

朝岡誠・金澤悠介、「コミットメント関係と信頼生成のメカニズム」第45回数理社会学会大会（成蹊大学）、2008年3月

Yusuke Kanazawa & Makoto Asaoka, “When Do High-Trusters Leave Their Commitment Relationship?” Fourth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference (Redondo Beach, California, May-June, 2008).

[井出知之] (2007.4~)

井出知之、「階層帰属意識と階層評価の基準」数理社会学会大会（芝浦工

業大学)、2008年8月31日

[稲垣典祐] (2007.4~)

稲垣佑典、「都市と村落における信頼生成プロセス」日本社会心理学会大会(早稲田大学)、2007年9月23日

稲垣佑典・辻 竜平、「都市と村落における信頼生成プロセスの検討」日本社会心理学会(早稲田大学)、2007年9月23日

Yusuke Inagaki. Trust and trust generating process in urban areas and rural areas. Fourth joint Japan-North America mathematical sociology conference. Redondo Beach, California, May 29-June 1, 2008

稲垣佑典、「地域比較による信頼生成過程の変化についての検討」、日本社会心理学会(鹿児島大学)、2008年11月2-3日

[金澤悠介]

金澤悠介、「心理メカニズムの進化—投射作用 (projection) と社会的環境の関係」第39回数理社会学会、2005年3月5日

Kanazawa, Yusuke, "The promotion and evolution of cooperation through projection: Implications for trust and social dilemmas." Third US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology, July 2005

金澤悠介、「協力行動、心理メカニズム及び社会的環境の研究——Orbell and Dawes (1991)の問題点」第40回数理社会学会、2005年9月

金澤悠介、「一般的信頼と社会的知性——エージェント・ベースト・モデルによる検討」第41回数理社会学会、2006年3月4日

金澤悠介、「信頼と信頼性の関連について——コミットメント関係の関係から」数理社会学会大会(九州大学)、2007年3月3日

金澤悠介、「異質な他者との付き合いは個人の信頼を上昇させるのか?——社会関係資本と信頼の関係に関する一考察」東北社会学会大会(東北福祉大学)、2007年7月21日

金澤悠介・針原素子・林雄亮・籠谷和弘・小林盾、「信頼と社会関係資本に関する地域比較——社会調査データによる検討」数理社会学会大会(広島修道大学)、2007年9月15日

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己高揚・自己卑下的自己呈示のフォーマライゼーションとネットワークモデルの検証」数理社会学会大会(広島修道大学)、2007年9月15日



針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己呈示戦略と近隣集団離脱戦略の共進化——エージェント・ベースト・シミュレーションによる検討」日本社会心理学会大会（早稲田大学）、2007年9月22日

Yusuke Kanazawa & Makoto Asaoka, “When Do High-Trusters Leave Their Commitment Relationship?” Fourth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference (Redondo Beach, California, May-June, 2008).

Kanazawa, Yusuke, “Which form of social networks fosters people’s trust? : A test of two hypotheses on the relationship between social networks and trust.” International Symposium on Frontiers of Sociological Inquires by Young Scholars in Asia, 2008

金澤悠介、「社会的ネットワークと信頼——3つの仮説の経験的検討」第45回数理社会学会（成蹊大学）、2008年3月

朝岡誠・金澤悠介、「コミットメント関係と信頼生成のメカニズム」第45回数理社会学会（成蹊大学）、2008年3月

Kanazawa, Yusuke, “Why social networks breed people’s sense of trust?: An empirical test of three hypotheses.” 第81回日本社会学会、2008年11月  
[銀屋裕]（～2008.3）

銀屋裕、「高度成長期における地域移動とその帰結——「集団就職」者の職業的キャリア」、第39回数理社会学会大会、2005年3月5日

銀屋裕、“A Trend of Rural Exodus and Social Stratification in Post-war Japan” 国際シンポジウム「移行期における都市化と社会階層——ベトナム・中国・モンゴル・日本の事例から」（東北大学）、2006年1月15日  
[工藤匠]（～2007.3）

海野道郎・篠木幹子・工藤匠、「社会的ジレンマは社会的ジレンマか」第52回東北社会学会大会、2005年7月30日

[佐藤智子]（2006.4～）

佐藤智子、「地方自治体における姉妹都市交流に関する実証的研究——継続的交流を可能ならしめる要因」日本国際政治学会（福岡国際会議場）、2007年10月28日

[塩谷芳也]（2005.4～）

塩谷芳也、「職業の序列と認知的職業分類」第52回東北社会学会大会、2005

年 7 月 30 日

塩谷芳也、「職業的地位認知と階層の再生産」数理社会学会大会（九州大学）、2007 年 3 月 3 日

塩谷芳也、「職業威信研究の課題と展望」東北社会学会大会（東北福祉大学）、2007 年 7 月 21 日

朝岡誠・塩谷芳也、「人種集団とアスピレーション—相互作用とアスピレーションのエージェントベーストモデル」数理社会学会大会（広島修道大学）、2007 年 9 月 15 日

SHIOTANI Yoshiya. “Perception of Occupational Status and Orientation of Status Attainment” , International Symposium on Frontiers of Sociological Inquires by Young Scholars in Asia (supported by The Center of the Study of Social Stratification and Inequality, 21st Century COE Program, Tohoku University; Yonsei BK Project, Yonsei University; Chung-Ang BK Project, Chung-Ang University ), in Oak Room Sendai Excel Hotel Tokyu, on January 26, 2008

塩谷芳也「職業威信構造の認知と達成的地位志向 —— 達成的地位志向に影響を及ぼす新変数の発見」第 45 回 数理社会学会大会（成蹊大学）2008 年 3 月 17 日

SHIOTANI Yoshiya. “Perception of Occupational Status and Orientation of Status Attainment” , Fourth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, in Redondo Beach, California, May 30, 2008

[篠木幹子]（～2004.9）

海野道郎・篠木幹子、「オーストラリアにおける廃棄物管理——南オーストラリア州アデレード都市圏を中心として」、東北社会学会大会第 51 回大会、2004 年 7 月 31 日

Kunihiro Kimura and Mikiko Shinoki, “Decision and Justification in the Social Dilemma of Recycling: Rational Choice and Cognitive Dissonance Reduction” (Paper presented at Joint Mathematical Sociology/Rationality and Society Mini-Conference in Conjunction with the 2004 (99th) American Sociological Association Meetings, San Francisco Hilton, August 18, 2004, San Francisco, California, United States of America), 2004, August (18<sup>th</sup>)

[針原素子] (2005.4～)

辻竜平・針原素子・添川朝香、「震災からの復旧・復興における行政ネットワークと住民ネットワークの利用——新潟県X市でのインタビュー調査からの考察」 日本ソフトウェア科学会ネットワークが創発する知能研究会第一回ワークショップ、2005年10月

針原素子、「謙虚な人は好かれるか——Jasso (1999) の公正指標による日本人の対人関係の分析」 数理社会学会第41回大会、2006年3月4日

辻竜平・針原素子、「知人数の推定と補正」数理社会学会第41回大会、2006年3月5日

針原素子、「自己呈示者への印象に推測された呈示動機が及ぼす影響 —— 「謙遜」よりも好かれる「謙虚」」日本グループ・ダイナミックス学会大会(武蔵野大学)、2006年5月

Motoko Harihara, & Tsuji, R., “The effect of social networks on modest self-presentation among Japanese: Comparison of rural and urban area,” Poster session presented at the 18th Congress of International Association for Cross-Cultural Psychology, Isle of Spetses, Greece, 2006, July

Tsuji, R., & Harihara, M., “Comparison of the Acquaintanceship Volumes in Japan and The United States,” Poster session presented at the 18th Congress of International Association for Cross-Cultural Psychology, Isle of Spetses, Greece, 2006, July

針原素子・辻竜平、「地位役割に関する自己卑下的自己呈示の動機について ——村落の住民代表者調査より」日本社会心理学会大会(東北大学)、2006年9月

辻竜平・針原素子・添川朝香、「震災からの復旧・復興における社会ネットワークの活用」日本社会心理学会大会(東北大学)、2006年9月

針原素子、「階層帰属意識に対する交際他者の地位の影響——スノーボール・サンプリングによる検討」数理社会学会大会(明治学院大学)、2006年9月

金井雅之・籠谷和弘・小林盾・武藤正義・針原素子・渡邊勉・秋吉美都・辻竜平・高久聡司・三隅一人、「宿泊施設の経営環境と業績との関係についての統計的分析——温泉地域の現状と取り組みについての学術調査(1)」日本温泉地域学会大会(蔵王温泉)、2007年7月

金澤悠介・針原素子・林雄亮・籠谷和弘・小林盾、「信頼と社会関係資本に関する地域比較——社会調査データによる検討」数理社会学会大会（広島修道大学）、2007年9月15日

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己高揚・自己卑下的自己呈示のフォーマライゼーションとネットワークモデルの検証」数理社会学会大会（広島修道大学）、2007年9月15日

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己呈示戦略と近隣集団離脱戦略の共進化——エージェント・ベースト・シミュレーションによる検討」日本社会心理学会大会（早稲田大学）、2007年9月22日

辻竜平・針原素子、「震災にともなう一般的信頼とネットワークの変化——新潟県中越地震におけるパネル調査より」日本社会心理学会大会（早稲田大学）、2007年9月23日

[林雅秀]（2007.4～）

林雅秀・天野智将、「ネットワークの視点から見た素材生産業者の行動」第118回日本森林学会大会（九州大学）、2007年4月3日

林雅秀・天野智将、「ネットワークが素材生産業者のパフォーマンスに与える影響」第80回日本社会学会大会（関東学院大学）、2007年11月17日

天野智将・林雅秀・堀靖人、「大規模木材需要の発生と素材生産業の対応」2007年林業経済学会秋季大会（島根大学）、2007年11月25日

[林雄亮]（2005.4～）

林雄亮、「社会階層・移動の地域間格差」、関東社会学会、2005年6月19日

林雄亮、「現代日本の不平等感——仙台市民意識調査の分析」東北社会学会大会（岩手県立大学）、2006年7月30日

林雄亮、「不平等感と階層イメージの変化——仙台市民意識調査の分析」日本社会学会大会（立命館大学）、2006年10月28日

Yusuke Hayashi, “Social Consciousness in Unequal Society,” 21st COE Program: Center for the study of Social Stratification and Inequality International Symposium on Social Stratification, Social Mobility, and Inequality in East Asia, Miyagi, 2007, February

林雄亮、「格差意識と不平等感——『2006年格差と不平等に関する宮城県

民意識調査』の分析」数理社会学会大会（九州大学）、2007年3月3日

林雄亮、「現代日本社会における地位の非一貫性問題——2005年SSM調査の分析」東北社会学会大会（東北福祉大学）、2007年7月

金澤悠介・針原素子・林雄亮・籠谷和弘・小林盾、「信頼と社会関係資本に関する地域比較——社会調査データによる検討」数理社会学会大会（広島修道大学）、2007年9月15日

林雄亮、「現代における社会的地位の一貫性問題」日本社会学会大会（関東学院大学）、2007年11月18日

[堀内史朗]（2004.4～2007.3）

堀内史朗、「ナワバリ制の起源」日本霊長類学会、2004年7月2日

堀内史朗、「ナワバリ制の進化：群れ密度が及ぼす影響」数理社会学会、2004年9月25日

堀内史朗、「ボノボ→チンパンジー→ヒトの進化：環境条件と集団サイズ格差」、日本霊長類学会、2005年7月3日

堀内史朗、「地域社会と「よそもの」の関係：秋田県八森町サル追い上げボランティアの研究」日本社会学会、2005年10月22日

Shiro Horiuchi, “What Causes variations into the group structure of Japanese macaques (*Macaca fuscata*)?,” International Mammalogical Congress, 2005

堀内史朗、「ボノボ→チンパンジー→ヒトの進化——サバンナ環境が集団格差の縮小を招いた」数理社会学会、2006年3月5日

[本郷正武]（2004.4～2007.3）

本郷正武、「感染当事者との関係性にみるHIV/AIDSをめぐる集合行為の展開」日本保健医療社会学会、2004年5月16日

本郷正武、「良心的支持者論の構想—HIV/AIDSをめぐる集合行為を事例に」東北社会学研究会研究例会（東北大学）、2004年7月3日

Hongo, Masatake, “Talking HIV/AIDS without Elimination of PWA/H: A Japanese NGO’s Attempts,” (Poster Exhibition), 第15回国際エイズ会議（タイ・バンコク）、2004年7月12日

本郷正武、「HIV/AIDSをめぐる集合行為のジレンマ——運動と事業を担うボランティア」（企画部会「可能性としてのボランティア論」）、

東北社会学会、2004年8月1日

本郷正武、「運動参加でのアイデンティティ間「調整」——「自我アイデンティティ」概念の再提起」、日本社会学会、2004年11月21日

本郷正武、「HIV/AIDSをめぐる集合行為にみる「命名」のポリテクス——当事者研究から当事者性研究へ」、北陸社会学研究会（金沢勤労者プラザ）、2004年12月4日

本郷正武、「セルフヘルプ・グループにおけるライフコースの重層性——個人のライフステージと組織変動との連関の分析に向けて」、日本保健医療社会学会、2005年5月14日

本郷正武、「市民活動団体による予防啓発活動の実践——「強制」と「共生」のジレンマを超えて」、日本エイズ教育学会、2005年10月16日

本郷正武、「ライフコースの重なりが結ぶセルフヘルプ・グループ像——会の継続の契機と『教えること』の伝承」、日本社会学会、2005年10月22日

本郷正武、「非告知方針が生み出した「疑心暗鬼」——薬害 HIV 感染者の聴き取り調査から」東北社会学会大会（岩手県立大学）、2006年7月29日

[三隅多恵子]（～2006.8）

Misumi, Taeko, “A Challenge of Large-Scale Data Sets with Rational Action Theory: Exemplifying Gender-Based Surveys in Japan,” Joint Mathematical Sociology/Rationality and Society Mini-Conference in Conjunction with the 2004 (the 99th) American Sociological Association Meetings in San Francisco, USA, 2004年8月18日

Misumi, Taeko, “The Reality and Relevant Factors on Sexual Abuse Against Married Women in Japan: The Comparison Between Rural and Urban Areas,” First Asian Pacific Conference of Sexology in Mumbai, India, 2004年11月23日

[三輪哲]（～2005.3）

Miwa, Satoshi, “The Comparative Study of Social Mobility in East Asia,” The 6th Workshop of the CSSI, 2004年6月21日

三輪哲、「国際比較のための職業分類間対応関係の検討—職業自由回答のダブルコーディング結果から」、第51回東北社会学会大会、2004年8

月 1 日

三輪哲、「現代東アジアにおける社会移動—日本・韓国・中国の比較データ解析」第 32 回日本行動計量学会大会、2004 年 9 月 18 日

Miwa, Satoshi, “Occupational Homogamy in Contemporary Japan: Trend and Comparative Analysis for Static Permeability of Social Boundary,” The 18th Workshop of the CSSI, 2004 年 11 月 8 日

三輪哲、「日本・韓国・中国における社会移動の共通性と変動」、第 77 回日本社会学会大会、2004 年 11 月 20 日

三輪哲、「出身階層測定の妥当性向上のための家計支持者変数」、第 2 回 2005 年 SSM 調査全体会合、2004 年 12 月 19 日

三輪哲、「日本における階層同類婚の長期的趨勢」、第 39 回数理社会学会大会、2005 年 3 月 5 日

[門間由記子]

門間由記子、「社会関係資本から見た“まちづくり”——地域社会における“ボランティア”」、第 51 回東北社会学会大会(企画部会報告)、2004 年 8 月 1 日

門間由記子、「自営業者と地域コミュニティの関係に関する一考察」、日本都市学会第 51 回大会、2004 年 10 月

門間由記子、「地域社会と自営業層——社会関係資本の観点から」、日本社会学会第 77 回大会、2004 年 11 月 21 日

門間由記子、“Life Career and Attachment Toward Local Community in Japan; Analysis with Life Histories of Shopkeepers,” 第 3 回 CSSI ワークショップ、2004 年 12 月

門間由記子、「地域コミュニティと自営業者——“住み続けられる地域づくり”における NPO との協働の可能性」、日本地域ガバナンス学会第二回大会、2005 年 7 月

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)プロジェクト部門特別賞

三隅多恵子、2004 年 11 月 20 日、

平成 16 年度 東北大学総長賞(卒業論文)

古本頼孝、「社会運動の展開におけるネットワークの影響」2005 年 3 月

Sapporo Best Paper Awards: Third US-Japan Joint Conference on Mathematical  
Sociology

金澤悠介, July 2005

**4 日本学術振興会研究員採択状況**

2004 年度 PD 受け入れ 2 人

2005 年度 PD 受け入れ 1 人

2006 年度 な し

2007 年度 な し

2008 年度 な し

**5 留学・留学生受け入れ**

**5-1 大学院生・学部学生等の留学数**

2004 年度 学部 0 名 大学院 0 名

2005 年度

学部（研究生）2 名

長春工業大学（中国）、Rajshahi 大学（バングラディシュ）、  
大学院 2 名（うち特別聴講学生 1 名）

蘇州大学（中国）、全北大学（韓国）

2006 年度

学部（研究生）4 名

長春工業大学（中国）、Rajshahi 大学（バングラディシュ）、Padjadjaran  
大学（インドネシア）、大連外国語学院大学、

大学院 1 名

蘇州大学（中国）

2007 年度

学部（研究生）1 名、大学院 3 名

Rajshahi 大学（バングラディシュ）、Padjadjaran 大学（インドネシ  
ア）、大連外国語学院大学

2008 年度

学部（研究生）2 名、大学院 3 名

Rajshahi 大学（バングラディシュ）、Padjadjaran 大学（インドネシ



ア)、大連外国語学院大学

## 5-2 留学生の受け入れ状況(学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
04	0	0	0
05	0 (2)	2	2 (2)
06	0 (4)	1	1 (4)
07	0 (1)	3	3 (1)
08	0 (2)	3	3 (2)
計	0 (9)	9	9 (9)

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
04	0	0	0
05	0	0	0
06	1	1	2
07	2	2	3
08	1	2	3
計	4	5	8

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

篠木幹子、岩手県立大学総合政策学部、2004年度  
神林博史、東北学院大学教養学部、2005年度  
三輪 哲、東京大学社会科学研究所、2005年度

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員 1名、  
通訳 0名、  
ジャーナリスト 1名、  
出版社社員 0名

## 8 客員研究員の受け入れ状況（2004年度～2008年度）

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

2005年度 Michael Macy 客員教授

2005年度 Nahum Chandler フルブライト招聘講師

2007年度 David Grusky 客員教授

2008年度 Paul A. Kowert フルブライト招聘講師

## 10 刊行物（専攻分野刊行のもの）

本研究室では、全国学会、もしくは海外での研究成果の報告を奨励していることから、研究室独自の定期刊行物の刊行はおこなっていない。（なお、研究室構成員は、これまで、日本社会学会、数理社会学会、行動計量学会の機関誌編集委員長となり、内外の他学会機関紙の編集委員担当も含め、学術情報の発信には積極的に貢献している。）

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2004年度

数理社会学会 学会誌『理論と方法』編集委員会

東北大学教育文化研究会事務局

2005年社会階層と社会移動調査研究会事務局

2005年度

東北大学教育文化研究会事務局

2005年社会階層と社会移動調査研究会事務局

生活環境研究会事務局

2006年度

2005年社会階層と社会移動調査研究会事務局

2007年度

2005年社会階層と社会移動調査研究会事務局

2008年度

第81回日本社会学会大会実行委員会（委員長：原 純輔、幹事：佐藤 嘉倫、事務局長：本郷正武）

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

### 2005年度

生活環境研究会 仙台市における「暮らしと家庭ごみに関する調査」  
(2005年2月)

生活環境研究会 仙台市・名古屋市・水俣市における「家庭廃棄物(ごみ)に対する住民の意識と行動に関する調査」(2005年10月)

2005年社会階層と社会移動調査研究会「仕事と暮らしに関する全国調査(社会階層と社会移動調査)」(2005年11月)

生活環境研究会 仙台市・名古屋市・水俣市における「家庭廃棄物(ごみ)に対する住民の意識と行動に関する調査」(2005年12月)

### 2006年度

生活環境研究会 釜石市における「家庭廃棄物(ごみ)に対する住民の意識と行動に関する調査」(2006年9月)

東北行動計量学研究会 シンポジウム “Justice and Forgiveness in Social Relations” (2007年3月24日)

### 2007年度

東北大学教育文化研究会 「教育と社会に対する高校生の意識」第6次調査(2007年10~12月)

## 1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点」がスタートした2003年ごろを境に、本研究室の研究体制は大きく変容し、研究成果は質量ともに向上した。まず、海外からの客員教授や、日本学術振興会特別研究員、留学生、研究生などを受け入れることで、異なる学問分野との知的交流がより促進された。このことは、日本国内はもとより、世界に通じる研究を発信することにも寄与している。加えて、2005年度前後には、大規模な調査研究プロジェクトが本研究室を事務局に進行し、その準備等に大きな人員と労力を割いてきた。これらの機会を得て、多くの大学院生が自身の研究を展開させ、多くの研究成果を生み出した。現在、これらの調査結果の分析に取り組んでいるが、現時点で博士課程(後期)に在籍する大学院生の絶対数は十分であるとは言い難い。今後は、研究室を挙げて能力の高い院生の募集と育成に傾注する必要がある。

博士学位授与件数は、数は少ないもののコンスタントに出ており、健闘していると考えている。今後は、後期3年で博士学位論文を提出する数を増やせるよう、指導をおこなっていききたい。

2008年度からは、グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」が採択された。行動科学研究室では、佐藤嘉倫教授がこの拠点リーダーであり、他の教授・准教授も全員、事業推進担当者としてこのプログラムに関わっている。このグローバルCOEプログラムを通じて、行動科学専攻分野の大学院生の教育に力を入れていきたい。

学部生の教育については、これまでも社会調査をおこなうためのトレーニングを体系的に組んできた。そこで得られた専門性は、調査会社や行政などで十二分に活かされていると自負している。2004年度からは、「社会調査士資格」の認定カリキュラムの実施により、さらに多くの学生が社会調査を通じて教育の成果を社会に還元してくれることを願っている。なお、社会調査士資格認定機構の設立に際し、原純輔はカリキュラムの作成など初期からかかわり、現在も理事として尽力している。

学会活動では、学会の開催事務局を引き受けてはいないものの、教員および大学院生とも積極的に学会運営および報告に寄与している。数理社会学会、および行動計量学会では、ほぼ毎年登壇しており、活発な議論を展開している。今後は、上記の研究プロジェクトに関する数多くの報告、特に国際学会での報告を期待している。学会役員としても、大きく貢献してきた。佐藤嘉倫が数理社会学会誌『理論と方法』の編集委員長（2003～2004年度）と、数理社会学会会長に（2005年度～）、木村邦博が監事となった（2005年度～2006年度）（数理社会学会に関しては、原純輔、海野道郎がともに会長経験者である）。東北社会学会では2003～2005年度は原純輔が、2005～2007年度は海野道郎が学会長として学会運営の先頭に立って活動した。日本社会学会においても、海野道郎が編集理事（機関誌『社会学評論』編集委員長）として（2000～2003年度）、佐藤嘉倫が国際交流委員（2003年度～現在）および将来計画特別委員（2005年度～現在）として学会活動を支えた。また佐藤は国際社会学会理事（2006年度～現在）および合理的選択部会会長（2006年度～現在）として国際社会学会に貢献している。2006年度からは、海野が財務理事として、世界社会学会招致と法人化をめざす日本社会学会の財務運営を担当し、木村は日本行動計量学会

で理事をつとめている（2006年度～）。

グローバル COE プログラムをはじめ、多くの大規模な研究プロジェクトが本研究室を中心に進行する一方で、事務局機能が肥大化しているのも事実である。幸い、近隣の他大学の教員や、本研究室を修了した研究者が積極的にプロジェクトを担っており、同時並行で研究が進んでいる。今後も他大学との連携を図り、事務局体制をより一層強化することが求められよう。

### Ⅲ 教員の研究活動(2004年度～2008年度)

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

[海野道郎]（～2008.3）

海野道郎・阿部晃士「現代の高校生にとって、学歴不公平感とは何か」  
片瀬一男・木村邦博・阿部晃士(編)『「教育と社会に対する高校生の意識」調査—第5次調査報告書』、85-102頁、東北大学教育文化研究会、2005

阿部晃士・海野道郎、「学歴社会イメージは変わったか—17年間の質的変化を探る」片瀬一男・木村邦博・阿部晃士(編)『「教育と社会に対する高校生の意識」調査—第5次調査報告書』71-84、東北大学教育文化研究会、2005年3月

海野道郎「父親の不公平感はなぜ低いのか—仙台都市圏における高校生調査の統計分析」『東北大学 東北文化研究室紀要』通巻46集、1-15頁、2005

海野道郎「誰が社会的ジレンマ状況を定義するのか？—社会的ジレンマ状況の定義と人々の行動—」『社会学研究』80号、7-28頁、2006〔小改訂の上、海野道郎編『廃棄物をめぐる人間行動と制度—環境問題解決の数理・計量社会学』（平成15～18年度科学研究費補助金 研究成果報告書）、245-262頁、2007、に再録〕。

UMINO, Michio, “A sense of unfairness as strata consciousness in Contemporary Japan,” pp.34-54 in *Social Justice in Japan: Concepts, Theories and Paradigms*, edited by Ken’ichi Ohbuchi, Melbourne: Trans Pacific Press, 2007

海野道郎「オーストラリアにおける環境問題—南オーストラリア州の廃棄

- 物問題を中心として」船橋晴俊・平岡義和・平林祐子・藤川賢（編）.  
『日本及びアジア・太平洋地域における環境問題と環境問題の理論と  
調査史の総合的研究』（2003-2006年度科学研究費補助金研究成果報告  
書、研究代表＝帆足養右、課題番号 1533011）、2007
- 海野道郎「経験科学の対象としての社会的ジレンマ—合理的選択理論に基  
づく方法論的検討—」海野道郎（編）『廃棄物をめぐる人間行動と制  
度—環境問題解決の数理・計量社会学—』（平成15～18年度科学研究  
費補助金 研究成果報告書）、105-118頁、2007
- 海野道郎「社会的ジレンマ状況を捉える経験的枠組み」海野道郎（編）『廃  
棄物をめぐる人間行動と制度—環境問題解決の数理・計量社会学—』  
（平成15～18年度科学研究費補助金 研究成果報告書）、263-276頁、  
2007
- 海野道郎・篠木幹子・工藤匠「社会調査における実査体制と回収率—Gomi  
調査の経験から」海野道郎（編）『廃棄物をめぐる人間行動と制度—  
環境問題解決の数理・計量社会学』（平成15～18年度科学研究費補助  
金 研究成果報告書）、227-235頁、2007
- [原 純輔]
- 原 純輔（張弦等訳）「政治態度和社会階層」高坂健次編『当代日本社会分  
層』、118-148頁、中国人民大学出版社、2004
- 原 純輔「現代日本社会と新しい不平等—『社会階層と不平等研究教育拠  
点』開設記念講演から」『社会学研究』77号、1-15頁、東北社会学研  
究会、2005
- 原 純輔「統計調査の方法」中村捷編『人文科学ハンドブック—スキルと作  
法』、185-189頁、東北大学出版会、2005
- 原 純輔「社会階層研究と地域社会」『地域社会学年報』18集、45-61頁、  
地域社会学会、2006
- Hara, Junsuke, “Contemporary Japanese Society and the New Inequalities: A  
Frontier of Social Stratification and Inequality Research,” pp.3-17 in  
*Deciphering Stratification and Inequality: Japan and Beyond*, edited by  
Yoshimichi Sato, Trans Pacific Press, 2007,
- 原 純輔「社会調査活動を支えるもの」『先端社会研究』6号、235-249頁、  
関西学院大学出版会、2007

原 純輔「『青少年の性行動全国調査』とその 30 年」日本性教育協会（編）  
『「若者の性」白書一第 6 回青少年の性行動全国調査報告』、7-21 頁、  
小学館、2007

[佐藤嘉倫]

佐藤嘉倫「社会学における進化論」『人工知能学会誌』、第 19 巻第 6 号、  
686-693 頁、人工知能学会、2004

Sato, Yoshimichi, and Shin Arita, “Impact of Globalization on Social Mobility  
in Japan and Korea: Focusing on Middle Classes in Fluid Societies,”  
*International Journal of Japanese Sociology*, vol. 13, pp. 36-52, 2004

佐藤嘉倫「社会学の新しい分析道具—進化ゲーム理論とエージェント・ベ  
ースト・モデル」『情報科学』第 25 号、1-11 頁、2005

佐藤嘉倫「市場における信頼関係とコミットメント関係」三隅一人（編）  
『フォーマライゼーションによる社会学的伝統の展開と現代社会の解  
明』（科学研究費研究成果報告書）、127-140 頁、2005

Sato, Yoshimichi, “Trust and Inequality: An Agent-based Model of Effect of  
Market Attractiveness on Trusting Behavior,” 与謝野有紀（編）『現代日  
本における社会階層、ライフスタイル、社会関係資本の連関構造の分  
析』（科学研究費研究成果報告書）、57-72 頁、2005 年

Sato, Yoshimichi, “Market, Trust, and Inequality: An Agent-based Model of  
Effect of Market Attractiveness on Trusting Behavior and Inequality,” 『理  
論と方法』、第 20 巻第 1 号、45-57 頁、数理社会学会、2005 年

佐藤嘉倫「日本型雇用慣行の弱体化とキャリア・イメージ—労働市場に焦  
点をあてたキャリア・イメージの分析」尾嶋史章（編）『現代日本に  
おけるジェンダーと社会階層に関する総合的研究』（平成 15 年度～平  
成 16 年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(1) 15330112 研究成果報告  
書）、3-13 頁、2005

佐藤嘉倫、「自己組織的不平等の理論に向けて—エージェント・ベースト・  
モデルと社会階層研究」『社会学研究』、第 77 号、65-80 頁、東北社  
社会学研究会、2005

佐藤嘉倫、「市場における信頼関係とコミットメント関係」佐藤嘉倫・平  
松闊（編著）『ネットワーク・ダイナミクス—社会ネットワークと合  
理的選択』、53-69 頁、勁草書房、2005

- Sato, Yoshimichi, "Trust and Commitment in the Market," pp.163-179 in *Relational Perspectives in Organizational Studies: A Research Companion*, edited by Olympia Kyriakidou and Mustafa F. Özbilgin, Cheltenham: Edward Elgar Publishing Inc., 2006
- Sato, Yoshimichi, "Reflections on the Studies of the Middle Classes in Japan: Searching for a New Perspective," pp. 51-60 in, *The Changing Faces of the Middle Classes in Asia-Pacific*, edited by Hsin-Huang Michael Hsiao, Taipei: The Center for Asia-Pacific Area Studies, RCHSS, Academia Sinica, 2006
- 佐藤嘉倫 「自己組織性とエージェント・ベースト・モデル」 『理論と方法』 第 21 巻第 1 号、1-10 頁、数理社会学会、2006
- 片瀬一男・佐藤嘉倫 「若年労働市場の構造変動と若年労働者の二極化」 『社会学年報』 第 35 号、1-18 頁、東北社会学会、2006
- Sato, Yoshimichi, "Deterioration in Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market," pp. 127-139 in *Deciphering Stratification and Inequality: Japan and Beyond*, , edited by Yoshimichi Sato, Melbourne: Trans Pacific Press, 2007
- 佐藤嘉倫・吉田崇 「貧困の世代間連鎖の実証的研究—所得移動の観点から—」 『日本労働研究雑誌』、 第 563 号、 75-83 頁、2007.
- 佐藤嘉倫 「格差社会論と社会階層論—格差社会論からの挑戦に答えて—」 『季刊経済理論』、 第 44 巻第 4 号、20-28 頁、2008
- Sato, Yoshimichi, and Shin Arita. "Globalization, Local Institutions, and Middle Classes: A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan and Korea," *Social Subsumption and Exclusion in East Asia*, Yonsei University Press, 2008. (Yoshimichi Sato and Shin Arita共著 韓国語)
- Sato, Yoshimichi, "Formation of Career Aspirations under Structural Constraints: A Comparative Study of Career Aspirations in Japan, Korea, and Taiwan," 阿形健司 (編), 『働き方とキャリア形成』 (2005SSM 調査シリーズ 4)、2005 年 SSM 調査研究会、143-158 頁、2008
- Sato, Yoshimichi, "Disparity Society Theory and Social Stratification Theory: An Attempt to Respond to Challenges by Disparity Society Theory," 佐藤嘉



倫（編）『流動性と格差の階層論』（2005SSM調査シリーズ 15）、  
2005年SSM調査研究会、1-20頁、2008

David B. Grusky, Yoshimichi Sato, Jan O. Jonsson, Satoshi Miwa, Matthew Di  
Carlo, Reinhard Pollak, and Mary C. Brinton, “Social Mobility in Japan: A  
New Approach to Modeling Trend in Mobility,” 渡邊勉（編）『世代間移  
動と世代内移動』（2005SSM調査シリーズ 3）、2005年SSM調査研究  
会、1-25頁、2008

Sato, Yoshimichi, and Shin Arita, “Globalization, Local Institutions, and Middle  
Classes: A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan  
and Korea,” 有田伸（編）『東アジアの階層ダイナミクス』（2005SSM  
調査シリーズ 13）、2005年SSM調査研究会、43-54、2008

佐藤嘉倫「結果の不平等」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社会  
階層と不平等』、東京：放送大学教育振興会、29-50頁、2008

佐藤嘉倫「機会の不平等」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社会  
階層と不平等』、東京：放送大学教育振興会、51-69頁、2008

佐藤嘉倫「不平等の国際比較」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社  
会階層と不平等』、東京：放送大学教育振興会、70-85頁、2008

佐藤嘉倫「韓国社会の両極化と流動性」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編  
著）『社会階層と不平等』、東京：放送大学教育振興会、119-136頁、  
2008

佐藤嘉倫「エスニシティと階層・不平等」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵  
憲一（編著）『社会階層と不平等』、東京：放送大学教育振興会、192-208  
頁、2008

佐藤嘉倫、「社会関係資本の光と影」、土場学・篠木幹子（編著）、『個人  
と社会の相克—社会的ジレンマ・アプローチの可能性—』、京都：ミネ  
ルヴァ書房、157-173頁、2008

佐藤嘉倫「分野別研究動向（階級・階層）—研究の展開とフロンティアの  
拡張—」、『社会学評論』、日本社会学会、印刷中

Sato, Yoshimichi, and Takashi Yoshida, “An Empirical Study of  
Intergenerational Transmission of Poverty from the Perspective of Income  
Mobility,” *Japan Labor Review*, 印刷中

[木村邦博]

Kimura, Kunihiro, and Mikiko Shinoki, “Decision and Justification in the Social Dilemma of Recycling: A Two-Stage Model of Rational Choice and Cognitive Dissonance Reduction” 三隅一人（編）『フォーマライゼーションによる社会学的伝統の展開と現代社会の解明』（平成14～16年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)研究成果報告書）、201-218頁、2005  
木村邦博、「既発表文献の図表を用いた『2次分析』の方法—クロス集計表・相関行列などから多変量解析へ」原純輔（編）『学術資源学の構想—平成15～17年度科学研究費補助金（萌芽）論文集』、41-56頁、2006

Kimura, Kunihiro, and Mikiko Shinoki, “Decision and Justification in the Social Dilemma of Recycling. I. A Two-Stage Model of Rational Choice and Cognitive Dissonance Reduction,” 『理論と方法』第22巻第1号、31-48頁、数理社会学会、2007年4月

Shinoki, Mikiko, and Kunihiro Kimura, “Decision and Justification in the Social Dilemma of Recycling. II. Empirical Tests of Predictions from the Model,” 『理論と方法』第22巻第1号、49-69頁、数理社会学会、2007

Kimura, Kunihiro, “Education, Employment and Gender Ideology,” pp.84-109 in *Gender and Career in Japan*, edited by Atsuko Suzuki, Melbourne: Trans Pacific Press, 2007

木村邦博「環境汚染問題の3つのモデル—社会的ジレンマと集団規模—」土場学・篠木幹子（編著）『個人と社会の相克—社会的ジレンマ・アプローチの可能性—』、53-75頁、ミネルヴァ書房、2008

[浜田 宏]

Hamada, Hiroshi, “A Generative Model of Income Distribution 2: Inequality of the Iterated Investment Game,” *Journal of Mathematical Sociology*, 28 (1): 1-24, 2004

浜田宏「不遇指数の公理的構成」『先端社会研究』第1号、53-78頁、2004

浜田宏「相対的剥奪の生成—マートン準拠集団論の精緻化—」三隅一人（編）『社会学の古典理論—数理で蘇る巨匠たち』、149-172頁、勁草書房、2004

石田淳・浜田宏、「仮想的機会調整による不平等分析—ブートストラップ法による機会調整前後のジニ係数の有意差検定—」『理論と方法』、

- 第 20 卷第 1 号、109-125 頁、数理社会学会、2005
- 浜田宏・七條達弘．2005「社会化の先取りの数理モデル」三隅一人（編）『フォーマライゼーションによる社会学的伝統の展開と現代社会の解明』（科学研究費助成研究報告書 基盤研究(B)(1)課題番号 14310084）、105-116.
- Hamada, Hiroshi. 2005 “Justice Evaluation and History of the Iterated Investment Game,” 三隅一人（編）『フォーマライゼーションによる社会学的伝統の展開と現代社会の解明』（科学研究費助成研究報告書 基盤研究(B)(1) 課題番号 14310084）、151-164 頁、2005
- Hanada, Hiroshi, “Parametric Decomposition of the Gini Coefficient: How Change of Subgroup Affect an Overall Inequality” 『理論と方法』、第 20 卷第 2 号、数理社会学会、241-256 頁、2005
- 浜田宏「客観的幸福と主観的幸福」『社会・経済システム』第 27 号、71-84 頁、2006
- 浜田宏「数理社会学者の課題—弱い経験的妥当性と意味の問題について」『理論と方法』第 21 卷第 2 号、数理社会学会、183-198 頁、2006
- 石田淳・高坂健次・浜田宏「住宅再建共済制度に関する数理社会学的考察 I—資産ダメージ率の分析」『先端社会研究』、第 5 号、219-236 頁、2006
- 浜田宏・石田淳・高坂健次「住宅再建共済制度に関する数理社会学的考察 II—加入率の分析」、『先端社会研究』、第 5 号、237-266 頁、2006
- 高坂健次・石田淳・浜田宏「住宅再建共済制度に関する数理社会学的考察 III—行政コストの分析」『先端社会研究』、第 5 号、267-285 頁、2006
- 浜田宏「進学率と世代間移動の数理モデル」『社会学評論』、第 58 卷第 4 号、608-624 頁、2008
- 浜田宏・石田淳「個人収入の適正感と満足度」、土場学（編）『公共性と格差』、2005 年SSM調査研究会.科学研究費補助金特別研究「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」成果報告書（2005 年SSM調査シリーズ 7）、45-56 頁、2008
- 浜田宏。「進学と世代間移動の合理的選択モデル—MMI 仮説の定式化」、渡邊勉（編）『世代間移動と世代内移動』2005 年 SSM 調査研究会.科学研究費補助金特別研究「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」成果報告書（2005 年 SSM 調査シリーズ 3）、111-128 頁、

2008

浜田宏「幸福の測り方」、高坂健次（編）『幸福の社会理論』、66-77 頁、放送大学出版協会、2008

浜田宏「幸福感の現状」高坂健次（編）『幸福の社会理論』、78-88 頁、放送大学出版協会、2008

浜田宏「幸福な社会のデザイン」、高坂健次（編）『幸福の社会理論』、89-99 頁、放送大学出版協会、2008

[本郷正武]

本郷正武・星敦士「スローフード運動における良心的支持者—誰が『食』のオルタナティブ運動を担っているのか」『甲南大學紀要 文学編』、151 号、1-21 頁、2008

本郷正武・蘭由岐子・大北全俊・若生治友、「いわゆる『集団告知』の多声的記述」、好井裕明（編）『被害当事者・家族のライフヒストリーの社会学的研究—薬害HIV感染被害問題を中心に』（平成 17 年～19 年度科学研究費補助金（基盤研究(B) 研究成果報告書）、49-65 頁、2008

## 1-2 著書・編著

[海野道郎]

原 純輔・海野道郎、『社会調査演習 第 2 版』、東京大学出版会、2004

中村 捷・花登正宏・千種眞一・松本宣郎・海野道郎（編）、『人文社会学ハンドブック』、東北大学出版会、2005

海野道郎（編著）『廃棄物をめぐる人間行動と制度—環境問題解決の数理・計量社会学—』、平成 15～18 年度科学研究費補助金研究成果報告書（基盤研究 (A) 課題番号 (15203021) ）、2007

[原 純輔]

原 純輔・海野道郎『社会調査演習 第 2 版』、東京大学出版会、2004

原 純輔・浅川達人『社会調査』、放送大学教育振興会、2005

Hara, Junsuke, and Kazuo Seiyama (trans. by Brad Williams), *Inequality amid Affluence: Social Stratification in Japan*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2005

原 純輔（編）『学術資源学の構想—平成 15～17 年度科学研究費補助金（萌芽）論文集』、2006

盛山和夫・原 純輔（監修）『現代日本社会階層調査研究資料集—1995 年 SSM調査報告書』（全 6 巻）、日本図書センター、2006

原 純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編）『社会階層と不平等』、放送大学教育振興会、2008

原 純輔（編）『リーディングス戦後日本の格差と不平等 2 一広がる平等神話 1971-1985』、日本図書センター、2008

[佐藤嘉倫]

土場学・小林盾・佐藤嘉倫・数土直紀・三隅一人・渡辺勉（編著）『社会を〈モデル〉でみる—数理社会学への招待』、勁草書房、2004

佐藤嘉倫・平松闊（編著）『ネットワーク・ダイナミクス—社会ネットワークと合理的選択』、勁草書房、2005

Sato, Yoshimichi, *Intentional Social Change: A Rational Choice Theory*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2006.

Sato, Yoshimichi (ed.), *Deciphering Stratification and Inequality: Japan and Beyond*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2007.

佐藤嘉倫（編）『流動性と格差の階層論』（2005SSM 調査シリーズ 15）、2005 年 SSM 調査研究会、2008

原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社会階層と不平等』、東京：放送大学教育振興会、2008

[木村邦博]

片瀬一男・木村邦博・阿部晃士（編）『教育と社会に対する高校生の意識—第 5 次調査報告書—』、東北大学教育文化研究会（分担：1-8 頁、57-70 頁、213-214 頁）、2005

木村邦博『日常生活のクリティカル・シンキング—社会学的アプローチ』、河出書房新社、2006

[浜田宏]

浜田宏『格差のメカニズム—数理社会的アプローチ』、勁草書房、2007

[本郷正武]

本郷正武『HIV/AIDS をめぐる集合行為の社会学』、ミネルヴァ書房、2007

### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

[海野道郎]

- 海野道郎「今田高俊『自己組織性と社会』（東京大学出版会、2005年）書評」 『理論と方法』、第20巻第2号、261-263頁、数理社会学会、2005
- 海野道郎・小林盾「人物と文献：数理社会学の歴史と展開」、土場学・小林盾・佐藤嘉倫・数土直紀・三隅一人・渡辺勉（編著）『社会を〈モデル〉で見る—数理社会学への招待』、203-220頁、勁草書房、2004
- 海野道郎「ザイゼル『数字で語る』を語る（解説）」H. Zeisel 著、佐藤郁哉訳『数字で語る』東京：新曜社、265-273頁、2005
- 海野道郎「社会調査と匿名性」『月刊 言語』第34巻第6号、4-5頁、大修館書店、2005
- 海野道郎「現代社会を評価する(1) 地位や豊かさの配分原理：理想と現実」『エストレーラ (ESTRELA)』第148号、46-49頁、(財)統計情報研究開発センター、2006
- 海野道郎「現代社会を評価する(2) 現代日本は公平な社会か：全般的不公平感と領域別不公平感」『エストレーラ (ESTRELA)』第149号、44-47頁、(財)統計情報研究開発センター、2006
- 海野道郎「現代社会を評価する(3) 不公平感はどこからくるのか：全般的不公平感の規定要因」『エストレーラ (ESTRELA)』第150号、50-53頁、(財)統計情報研究開発センター、2006
- 海野道郎「現代社会を評価する(4) 不公平感と不満足感はどのように違うのか：評価水準の問題」『エストレーラ (ESTRELA)』第151号、40-43頁、(財)統計情報研究開発センター、2006
- 海野道郎「現代社会を評価する(5) 父親の不公平感はなぜ低いのか：不公平感の男女間・親子間比較」『エストレーラ (ESTRELA)』第152号、42-45頁、(財)統計情報研究開発センター、2006
- 海野道郎「現代社会を評価する(6) 高学歴者の学歴不公平感はなぜ高いのか：パラドックスの解明」『エストレーラ (ESTRELA)』第153号、46-49頁、(財)統計情報研究開発センター、2006年
- 海野道郎「家庭廃棄物（ごみ）に対する住民の意識と行動」『中央調査報』第588号、1-5頁、2006
- 海野道郎「ホームズの上に乗って—書評・橋本茂著『交換の社会学』世界思想社、2005年—」『社会学研究』、80号、265-269頁、東北社

会学研究会、2006

海野道郎、「書評 白波瀬佐和子編『変化する社会の不平等—少子高齢化社会に潜む格差—』東京大学出版会、2006.」『大原社会問題研究所雑誌』第 578 号、49-52 頁、2007

[原 純輔]

原純輔「書評：吉川徹著『学歴と格差・不平等—成熟する日本型学歴社会』」『日本労働研究雑誌』第 558 号、71-73 頁、労働政策研究・研修機構、2007

[佐藤嘉倫]

佐藤嘉倫「金光淳著『社会ネットワーク分析の基礎—社会関係資本論にむけて』書評」『理論と方法』、第 19 巻第 2 号、265-266 頁、数理社会学会、2004

佐藤嘉倫「社会分析の道具としてのゲーム理論」数土直紀・今田高俊（編著）『数理社会学入門』（数理社会学シリーズ 1）、勁草書房、2005 年 2 月

鈴木淳子・佐藤嘉倫「ディスカッションに親しもう」中村捷（編）『人文科学ハンドブックスキルと技法』、87-93 頁、東北大学出版会、2005

佐藤嘉倫「研究の道具としてのコンピュータ・シミュレーション」中村捷（編）『人文科学ハンドブックスキルと技法』、189-192 頁、東北大学出版会、2005

佐藤嘉倫「フリーター問題に寄り添って」『Business Labor Trend』、2008 年 4 月号、40 頁、2008.

佐藤嘉倫「社会階層研究の今日から明日へ」『学術の動向』、2008 年 4 月号、70-71 頁、2008

佐藤嘉倫「学問において『わからない』という勇氣」『文学部・文学研究科ブックレット 考えるということ』第 3 巻、2-8 頁、2008

佐藤嘉倫「正規雇用と非正規雇用の比較による労働市場と社会階層との関係を実証的に解明」『科研費 NEWS』、2008 年 Vol.1、3 頁、2008

佐藤嘉倫「社会階層と不平等の問題を多面的に研究—格差問題に一石」『東北大学アニュアルレビュー2008』（印刷中）

佐藤嘉倫「2005 年社会階層と社会移動調査の概要」『よろん』（印刷中）

[木村邦博]

木村邦博「社会的ジレンマ」潮村公弘・福島治（編著）『社会心理学概説』、  
157-165 頁、北大路書房、2007

木村邦博「競争と協同」日本社会心理学会（編集）『社会心理学事典』、  
丸善、2009（印刷中）

[浜田宏]

浜田宏「なぜ恵まれているのに不満を感じるか」土場学・小林盾・佐藤嘉  
倫・数土直紀・三隅一人・渡辺勉（編）『社会を〈モデル〉でみる－  
数理社会学への招待』、150-153 頁、勁草書房、2004

浜田宏「繰り返しゲームによる所得分布の生成」数土直紀・今田高俊（編）  
『数理社会学シリーズ第 1 巻 数理社会学入門』、187-210 頁、勁草書  
房、2005

浜田宏「囚人のジレンマ」大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一（編）『社会  
文化理論ガイドブック』、53-56 頁、ナカニシヤ出版、2006

浜田宏「リベラルパラドクス」大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一（編）『社  
会文化理論ガイドブック』、227-230 頁、ナカニシヤ出版、2006

[本郷正武]

本郷正武・徳川直人（訳）「誰のために一質的研究における表象／代弁と  
社会的責任」平山満義（監訳）『質的研究ハンドブック 1 巻 質的研  
究のパラダイムと眺望』、87-114 頁、北大路書房、2006（= Fine, M.,  
L. Weis, S. Weseen, and L. Wong, 2000, “For Whom?: Qualitative Research,  
Representations, and Social Responsibilities,” pp.107-131 in *Handbook of  
Qualitative Research (second edition)*, edited by N. K. Denzin and Y. S.  
Lincoln)

## 1-4 口頭発表

### (1) 国際学会

[海野道郎]

Umino, Michio and Mikiko Shinoki, “How can we solve social dilemmas?:  
Quantitative analysis of pro-environmental behavior in Japan,” ISSRM2006  
(The 12th International Symposium on Society and Resource Management,  
June 3-8, 2006. Vancouver, Canada.) (section “Environmental behaviour in  
urban Regions,” oral presentation), June 7, 2006



Shinoki, Mikiko and Michio Umino, “Recycling Behavior and Mechanism of Justification: Empirical Analyses of the Survey in Sendai, Nagoya, and Minamata Cities, Japan” ISSRM2006 (The *12th International Symposium on Society and Resource Management*, June 3-8, 2006. Vancouver, Canada.) (section “Environmental behaviour in urban regions,” oral presentation), June 7, 2006

Umino, Michio. “How do people behave in social dilemma situation?: Pro-environmental behavior vs. rational choice,” Sociological Conference for the Korean Sociological Association, 2006年6月15-16日  
海野道郎「現代日本の不公平感：知見の概要」、韓国日本学会ソウル部会、2006年6月17日

Umino, Michio, and Mikiko Shinoki, “Do People Love Costly System?: The Micro-Macro Analysis toward the Paradox of the Positive Correlation between the High-cost Waste Separation System and the Positive Evaluation toward the System,” TASA2006(Annual Conference of The Australian Sociological Association. The University of Western Australia, 4-7 December 2006)(Stream: Urban & Rural Sociology, Theme: The Economics of Lifestyle)

Shinoki, Mikiko, and Michio Umino, “The feature of waste management system affecting recycling behaviors in Japan,” TASA2006(Annual Conference of The Australian Sociological Association. The University of Western Australia, 4-7 December 2006)(Stream: Urban & Rural Sociology, Theme: Technology and Sustainable Environment)

[佐藤嘉倫]

Sato, Yoshimichi, “Postmodernity and Social Mobility in Japan,” International Workshop on Modernity, Post-modernity and Globalization in Europe and Japan, King’s College, University of Cambridge, U.K., June 11, 2004

Sato, Yoshimichi, and Shin Arita, “The Impact of Globalization on Social Mobility in Japan and Korea: Focusing on Middle Classes in Fluid Societies,” The 36th World Congress of the International Institute of Sociology, Beijing, China, July 7-11, 2004

Sato, Yoshimichi, “Trust and Inequality: An Agent-based Model of Effect of

- Market Attractiveness on Trusting Behavior,” The 99th Annual Meeting of the American Sociological Association, San Francisco, August 14-17, 2004
- Sato, Yoshimichi, “Trust and Inequality: An Agent-based Model of Effect of Market Attractiveness on Trusting Behavior,” Mini-Conference on Self-Organizing Inequalities, Cornell University, October 15, 2004
- Sato, Yoshimichi, “Trust and Inequality: An Agent-based Model of Effect of Market Attractiveness on Trusting Behavior,” Poster Presentation, The 1st Japanese-German Frontiers of Science Symposium, Mainz, Germany, January 28-31, 2005
- Sato, Yoshimichi, “Trust and Inequality: An Agent-based Model of Effect of Market Attractiveness on Trusting Behavior,” The Conference on Rational Choice and Social Institutions, The University of Groningen, The Netherlands, March 9-11, 2005
- Sato, Yoshimichi, “Impact of Globalization on Social Mobility in Japan and Korea: Focusing on Middle Classes in Fluid Societies,” International Workshop on Social Stratification, Social Mobility, and Inequality in Japan and Korea, Sendai, March 19, 2005
- Sato, Yoshimichi, “Trust and Commitment Formation in the Market,” The Third US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology, Hokkaido University, June 24-26, 2005
- Sato, Yoshimichi, “Deterioration in the Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market,” The 100th Annual Meeting of the American Sociological Association, Philadelphia, August 13-16, 2005
- Sato, Yoshimichi, “Deterioration in the Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market,” Zentrum für Umfragen, Methoden und Analysen, Mannheim, Germany, August 29, 2005
- Sato, Yoshimichi, “Deterioration in the Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market,” (Poster Presentation), The 2nd Japanese-German Frontiers of Science Symposium, 湘南国際村, 2005年11月3-5日

- Sato, Yoshimichi, "Deterioration in the Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market," *New Directions in Inequality and Stratification*, Princeton University, April 6-8, 2006.
- Sato, Yoshimichi, "A Comparative Study of Trust in Japan and Korea: How Can We Solve Korean Puzzles in the Study of Trust?" The International Session "Social Trust, Work, and Occupation in Korea and Japan" of the KGSS Symposium 2006, Seoul, May 18, 2006.
- Sato, Yoshimichi, "Trust, Inequality, and Commitment: Effect of Commitment on the Relationship between Trust and Inequality," The XVI ISA World Congress of Sociology, Durban, South Africa, July 23-29, 2006.
- Sato, Yoshimichi, "Trust and Social Mobility: An Empirical Study of the Effect of Job Change on Trust," The 101st Annual Meeting of the American Sociological Association, Montreal, August 10-14, 2006.
- Sato, Yoshimichi, "Trust and Social Mobility: An Empirical Study of the Effect of Job Change on Trust", The 4th CEFOM/21 International Symposium: Cultural and Adaptive Bases of Human Sociality, The International House of Japan, Tokyo, September 9-10, 2006.
- Sato, Yoshimichi, "A Comparative Study of Trust in Japan and Korea: How Can We Solve Korean Puzzles in the Study of Trust?" The International Conference on The Global Futures of World Regions: The New Asia and the Vision of East Asian Sociology, Seoul, Korea, September 28 and 29, 2006.
- Sato, Yoshimichi, "Impact of Globalization on Inequality in Japan and Korea: Focusing on Social Mobility of Middle Classes," CRED Seminar, Queen Mary College, University of London, December 13, 2006.
- Sato, Yoshimichi, "An Analysis of Social Structural Effects on Status Attainment Process," International Symposium on Frontiers of Sociological Inquires by Young Scholars in Japan and Korea, Sendai Excel Hotel Tokyu, Japan, January 22, 2007.
- Sato, Yoshimichi, "Trust and Inequality: An Agent-based Model of Effect of Market Attractiveness on Trusting Behavior," International Symposium on Frontiers of Sociological Inquires by Young Scholars in Japan and Korea,

- Sendai Excel Hotel Tokyu, Japan, January 22, 2007.
- Sato, Yoshimichi, "A Comparative Study of Career Aspirations in Japan and Korea: A Preliminary Analysis of the 2005 Social Stratification and Social Mobility Data," International Symposium on Social Stratification, Social Mobility, and Inequality in East Asia, Sendai Excel Hotel Tokyu, Japan, February 3, 2007.
- Sato, Yoshimichi, "A Comparative Study of Career Aspirations in Japan and Korea: A Preliminary Analysis of the 2005 Social Stratification and Social Mobility Survey Data," University of Texas, Austin, March 22, 2007.
- Sato, Yoshimichi, "Social Surveys and Their Infrastructure in Japan," 社会調査とそのインフラストラクチャーのコンソーシアム主催、「国際シンポジウム 社会調査とそのインフラストラクチャー—グローバルな視点から—」、国際交流基金・国際会議場, 2007年3月30日.
- Sato, Yoshimichi, "Deterioration in the Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market," The 13th Brazilian Sociological Congress, Recife, Brazil, May 29-June 1, 2007.
- Sato, Yoshimichi and Shin Arita, "Globalization, Local Institutions, and Middle Classes: An Analysis of the Interaction between Globalization and Local Institutions Focusing on Changes in Social Mobility of Middle Classes," International Forum: Middle Class Research with Comparative Perspective, The 17th Annual Meeting of the Chinese Sociological Association, Changsha, Hunan, China, July 21-22, 2007.
- Sato, Yoshimichi, "Local Social Capital, Global Social Capital, and Inequality: An Agent-based Model of the Effect of Commitment on the Relationship between Trust and Inequality," The 102nd Annual Meeting of the American Sociological Association, New York, August 11-14, 2007.
- Sato, Yoshimichi, "Local Social Capital, Global Social Capital, and Inequality: An Agent-based Model of the Effect of Commitment on the Relationship between Trust and Inequality," International Conference on Rational Choice and Social Institutions, Zurich, September 6-8, 2007.
- Sato, Yoshimichi, and Shin Arita, "Globalization, Local Institutions, and Middle

- Classes: A Preliminary Analysis of the 2005 SSM Data,” Yonsei International Conference, Yonsei University, Seoul, October 26-27, 2007
- Sato, Yoshimichi, “Change in Income Inequality from 1995 to 2005 in Japan,” International Symposium on Inequality in the 21st Century: What Are the Main Challenges of Our Time?, The Center for the Study of Social Stratification and Inequality, Tohoku University, Sendai, November 3-4, 2007.
- Sato, Yoshimichi, “A Comparative Study of Career Aspirations in Japan, Korea, and Taiwan: A Preliminary Analysis of the 2005 Social Stratification and Social Mobility Data,” International Conference on East Asian Comparative Research, National Taiwan University, Taipei, November 24-25, 2007.
- Sato, Yoshimichi, “Disparity Society Theory and Social Stratification Theory: An Attempt to Respond to Challenges by Disparity Society Theory,” International Joint Symposium on “Socio-political Transformation in Globalizing Asia: Integration or Conflict?”, Waseda University, Tokyo, February 20-21, 2008.
- Sato Yoshimichi, “Rational Choice of Career Aspirations under Structural Constraints: Comparison of Career Aspirations in East Asia,” The 103rd Annual Meeting of the American Sociological Association, Boston, August 1-4, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Rational Choice of Career Aspirations under Structural Constraints: Comparison of Career Aspirations in Japan, Korea, and Taiwan,” The 2008 Summer RC28 Meeting, Stanford, August 6-9, 2008.
- [木村邦博]
- Kimura, Kunihiro, and Mikiko Shinoki, “Decision and Justification in the Social Dilemma of Recycling: Rational Choice and Cognitive Dissonance Reduction,” Joint Mathematical Sociology/ Rationality and Society Mini-Conference in conjunction with the 99th Annual Meetings of the American Sociological Association, San Francisco, USA, 2004年8月18日
- Shinoki, Mikiko, and Kunihiro Kimura, “Decision and Justification in the Social Dilemma of Recycling: Analyses of Social Survey Data from Sendai, Japan,” Second International Conference on Rational Choice and Social Institutions,

- University of Groningen, Groningen, the Netherlands, 2005 年 3 月 9 日
- Kimura, Kunihiro. "Education, Employment and Gender Ideology of Japanese Married Women: Rational Choice, Cognitive Dissonance, and the Segmented Labor Market," Second International Conference on Rational Choice and Social Institutions, University of Groningen, Groningen, the Netherlands, 2005 年 3 月 11 日
- Kimura, Kunihiro. "Education, Employment, and Gender Ideology of Japanese Married Women: A Model of Rational Choice, Cognitive Dissonance, and the Segmented Labor Market," Third US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology, 北海道大学/札幌市, 2005 年 6 月 25 日
- Kimura, Kunihiro. "Trends of Sex Discrimination in Japan, 1965-2000: The Gender Gap in Wage and the 'Marriage Bar,'" (invited presentation) Conference on Global Studies of Discrimination, Princeton University, Princeton, New Jersey, USA, 2007 年 5 月 19 日
- Kimura, Kunihiro, "Marriage, Sex Discrimination, and Inequality within the Sexes: Testing a Simple Model with the Data of Japan, 1965-2000," International Conference on Rational Choice and Social Institutions, ETH Zurich, Switzerland, 2007 年 9 月 8 日
- Kimura, Kunihiro, "Marriage, Sex Discrimination, and Inequality within the Sexes: Testing a Simple Model with the Data of Japan, 1965-2005," Fourth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, Redondo Beach, California, USA, 2008 年 5 月 30 日
- [浜田宏]
- Kosaka, Kenji, Atsushi Ishida, and Hiroshi Hamada, "The Notion of Vulnerability: In Search of Answers to the Study of Social Stratification." The 36th World Congress of International Institute of Sociology, Beijing, China, 2004
- Ishida, Atsushi, Kenji Kosaka, and Hiroshi Hamada, "Risk and Vulnerability Caused by Large-scale Disaster: Toward a New Perspective on Social Stratification." The 7th Conference of Asia-Pacific Sociological Association, Bangkok and Mahidol University, Salaya campus, Bangkok Thailand, 2005
- Ishida, Atsushi, Kenji Kosaka and Hiroshi Hamada, "A Boolean Analysis of

Human Well-being.” International Conference on Comparative Social Sciences, Sophia University, Tokyo, Japan. July 15-16, 2006

Ishida, Atsushi, Hiroshi Hamada, and Kenji Kosaka, “How Many People in the World Will Be Better Off by Redistribution of Wealth?: A Virtual Redistribution Analysis.” The 8th Conference of the Asia Pacific Sociological Association, Penang, Malaysia, 19-22, November, 2007

Ishida, Atsushi, Hiroshi Hamada, and Kenji Kosaka, “A Simulation Analysis of Effects of Global Redistribution of Wealth on Subjective Well-being in the World,” The 38th World Congress of International Institute of Sociology, Budapest, Hungary, June 26-30, 2008

[本郷正武]

Hongo, Masatake, “Constructing Identity as Conscience Adherents: Identity politics in Japanese AIDS NGOs,” Collective Behavior & Social Movement Workshop (Hofstra Univ., Long Island, NY), August 9, 2007

Hongo, Masatake, “Involving with Collective Activities as Conscience Adherents: AIDS Workshops in Japanese AIDS NGOs,” Society for the Study of Symbolic Interaction Annual Meeting (New York), August 12, 2007

Hongo, Masatake, “Involving with Collective AIDS Activities as Conscience Adherents: Toward to Remedy of Isolated PWA/H in Japan,” International Sociological Association, Research Committee on Social Movements, Collective Action and Social Change (RC48), Barcelona, Spain, September 6, 2008

## (2) 国内学会

[海野道郎]

海野道郎 課題報告「水と地域の社会学」（コメンテーター）、第51回東北社会学会大会（弘前大学）、2004年7月31日

海野道郎・篠木幹子「オーストラリアにおける廃棄物管理—南オーストラリア州を中心として」、第51回東北社会学会大会（弘前大学）、2004年8月1日

阿部晃士・海野道郎「学歴社会イメージと不公平感の時系列分析—教育と

社会に対する高校生の意識調査の分析」、教育社会学会（東北大学）、  
2004年9月11-12日

海野道郎・阿部晃士「学歴不公平感の変貌から学歴の意味変化を考察する」、  
第77回日本社会学会大会（熊本大学）、2004年11月20日-21日

篠木幹子・海野道郎「ごみ分別システムの成立過程—水俣市を事例として」、  
第77回日本社会学会大会（熊本大学）、2004年11月20日-21日

海野道郎・篠木幹子・工藤 匠「社会的ジレンマは社会的ジレンマか」、  
第52回東北社会学会大会（宮城教育大学）、2005年7月30-31日

海野道郎・篠木幹子「『社会的ジレンマ』は人々にとってもジレンマなのか」、  
第78回日本社会学会大会（法政大学）、2005年10月22-23日

篠木幹子・海野道郎「制度のタイプによるごみ分別行動に関する検討」、  
第16回廃棄物学会研究発表会（仙台国際センター）、2005年10月31  
日～11月2日

海野道郎 ラウンドテーブル発題報告「社会的ジレンマ状況を人々はどの  
ように捉えているのか？—合理的選択理論の経験的研究に向けて」、  
第41回数理社会学会大会（設立20周年記念大会）、2006年3月3日  
-4日

海野道郎「社会的ジレンマの経験的研究は可能か」、第53回東北社会学会  
大会、2006年7月

海野道郎・篠木幹子「社会調査における社会的ジレンマの測定について：  
方法論的検討」行動計量学会 一般セッション「社会調査」（聖学院  
大学）2006年9月14日

海野道郎「廃棄物をめぐる人間行動と制度—調査プロジェクトの概要—」  
日本社会学会 第79回大会（立命館大学）2006年10月

海野道郎「社会調査と公共財：公共財についての調査と公共財としての調  
査」（招待講演）2006年度世論調査協会研究大会（中央大学駿河台  
記念館）2006年11月10日

海野道郎・篠木幹子「“KESAB”はなぜ元気か？—南オーストラリア州の  
環境NPOの成功原因を探る」第54回東北社会学会大会（東北福祉大学）  
自由報告、2007年7月21-22日

篠木幹子・海野道郎・阿部晃士「ごみ分別制度の特徴とコスト感がごみ分  
別行動に与える影響の分析」つくば国際会議場（茨城県つくば市竹園



2-20-3) 2007年11月19-21日

[原 純輔]

原純輔「社会階層研究と地域社会」、第30回地域社会学会大会、2005年

原純輔「社会調査と倫理」、第78回日本社会学会大会、2005年

原純輔「計量社会学の射程」、第41回数理社会学会大会、2006年

[佐藤嘉倫]

佐藤嘉倫「安心集団は信頼を学習する学校である」、第39回数理社会学会大会、シンポジウム「社会関係資本論のフロンティア」、新潟国際情報大学、2005年3月4-5日

佐藤嘉倫「社会学の新しい分析道具—進化ゲーム理論とエージェント・ベースト・モデル」、2004年度情報科学研究所講演会・研究発表会、札幌学院大学情報科学研究所、2005年3月16日

佐藤嘉倫「グローバリゼーションと社会階層研究」、第53回関東社会学会大会、立教大学、2005年6月19日

佐藤嘉倫「自己組織性とエージェント・ベースト・モデル」、第40回数理社会学会大会、同志社大学、2005年9月14日

佐藤嘉倫「社会階層と機会の平等」、一橋大学経済研究所現代規範理論研究会、2005年9月27日

前田忠彦・中尾啓子・佐藤嘉倫“Sample Design in SSM Korean and Japanese Surveys,” 2006年度統計関連学会連合大会、仙台、2006年9月5-8日.

佐藤嘉倫「格差社会論と社会階層論—格差社会論からの挑戦に込めて—」、日本社会学会第80回大会シンポジウム「格差社会—その現状と未来—」、関東学院大学、2007年11月17-18日.

佐藤嘉倫「大学院における社会調査教育の面白さと難しさ—東北大学行動科学研究室の事例—」、関西学院大学COEプログラム連続シンポジウム「大学院における社会調査教育はどうあるべきか」第4回「社会調査教育への提言と展望」、2007年12月8日.

Grusky, David B., Yoshimichi Sato, Jan O. Jonsson, Satoshi Miwa, Matthew Di Carlo, Reinhard Pollak, and Mary C. Brinton, “Social Mobility in Japan: A New Approach to Modeling Trend in Mobility,” 第45回数理社会学会大会、東京・成蹊大学、2008年3月16-17日

[木村邦博]

木村邦博「『女性にとっての学歴の意味』再考—教育と社会に対する高校生の意識第5次調査データの分析」、第56回日本教育社会学会大会（東北大学）、2004年9月12日

木村邦博「現代日本女性にとっての学歴、就業、性別役割意識—ログリニア・モデルによる分析」、日本行動計量学会第33回大会（長岡技術科学大学）、2005年8月28日

木村邦博「既発表文献の図表を用いた『2次分析』の方法—クロス集計表・相関行列などから多変量解析へ」（招待講演）、日本行動計量学会講習会「社会調査士教育における多変量解析」、主催：日本行動計量学会、共催：社会調査士資格認定機構・多摩大学（多摩大学ルネッサンスセンター）、2005年11月27日

長谷川聡美・木村邦博、「子育て意識の構造—自由回答データの計量分析」日本行動計量学会第34回大会（聖学院大学）、2006年9月13日

大山美幸・木村邦博、「大学生の逸脱行動の測定—ランダマイズド・レスポンス法の適用とその問題点」、日本社会心理学会第47回大会（東北大学）、2006年9月18日

木村邦博「『問い』を主題とした学説研究の重要性—科学としての社会学と歴史学としての社会学史の発展のために—」（課題報告・招待講演）、第55回東北社会学会大会（福島大学）、2008年7月19日

木村邦博「カテゴリカルデータ分析におけるグラフィカル表示と数式」（特別セッション「統計解析に数式はいるか？」）、日本行動計量学会第36回大会（成蹊大学）、2008年9月5日

[浜田宏]

浜田宏「部分集団サイズの変化と全体ジニ係数」、第37回数理社会学会大会、東京都立大学、2004年3月

浜田宏「客観的不幸と主観的幸福」、第24回社会・経済システム学会大会、関西学院大学、2005年11月

浜田宏・高坂健次「主観的幸福感の社会調査」第41回数理社会学会大会、東京大学、2006年3月

浜田宏「進学率と世代間移動の数理モデル—ブードンモデル一般化の試み」、第42回数理社会学会大会、明治学院大学、2006年9月23-24日

浜田宏「教育格差と世代間移動の合理的選択—MMI 仮説の数理モデル」、  
第 44 回数理社会学会大会、広島修道大学、2007 年 9 月 15-16 日

[本郷正武]

本郷正武「NPO/NGO に社会運動性を見出すことの意義—HIV/AIDS をめぐる集合行為を事例として」（テーマセッション）、日本社会学会大会、関東学院大学、2007 年 11 月 18 日

本郷正武「薬害 HIV 訴訟期の感染被害者の社会参加への道筋—『良心的支持者』としてのアイデンティティの獲得」、日本社会学会大会、東北大学、2008 年 11 月 24 日

## 2 教員の受賞歴（2004 年度～2008 年度）

佐藤嘉倫

2005 年度 Best paper award, The Third US-Japan Joint Conference on  
Mathematical Sociology

2008 年度 Book Award for Scholarly Excellence, Ministry of Culture,  
Sports and Tourism, Korea

## IV 教員による競争的資金獲得（2004 年度～2008 年度）

### （1）科学研究費補助金

#### 2004 年度

[海野道郎]

研究代表者 基盤研究 A：研究課題「廃棄物をめぐる人間行動と制度—  
環境問題解決の数理・計量社会学」、2003（平成 15）年度—2006（平  
成 18）年度（2004 年度：5,000 千円+2005 年度：15,900 千円+2006  
年度：6,900 千円 = 総額：33,900 千円）

[原 純輔]

研究代表者 萌芽研究：「学術資源学の構想」、1,000 千円

[佐藤嘉倫]

研究代表者 「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」、  
直接経費 1,970 万円、間接経費 591 万円

[木村邦博]

研究分担者 基盤研究 C 研究代表者：片瀬一男（東北学院大学）「現代高校生における社会意識の形成過程に関する実証的研究」（2002（平成 14）年度－2004（平成 16）年度）

研究分担者 基盤研究 B 研究代表者：三隅一人（九州大学）「フォーマライゼーションによる社会学的伝統の継承と刷新」（2001（平成 13）年度－2003（平成 15）年度）

研究分担者 萌芽研究 研究代表者：原 純輔（東北大学）「学術資源学の構想」（2003（平成 15）年度－2005（平成 17）年度）

研究分担者 基盤研究 B 研究代表者：大淵憲一（東北大学）「公共事業政策の評価と合意形成の社会心理学的研究—手続き的公正理論の応用」（2003（平成 15）年度－2006（平成 18）年度）

#### 2005 年度

[海野道郎]

研究代表者 基盤研究 A：研究課題「廃棄物をめぐる人間行動と制度—環境問題解決の数理・計量社会学」、2003（平成 15）年度－2006（平成 18）年度（2005 年度：15,900 千円）

[原 純輔]

研究代表者 萌芽研究：「学術資源学の構想」、700 千円

[佐藤嘉倫]

研究代表者 「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」、直接経費 18,660 万円、間接経費 5,598 万円

[木村邦博]

研究分担者 萌芽研究 研究代表者：原純輔（東北大学）「学術資源学の構想」（2003（平成 15）年度－2005（平成 17）年度）

研究分担者 基盤研究 B 研究代表者：大淵憲一（東北大学）「公共事業政策の評価と合意形成の社会心理学的研究—手続き的公正理論の応用」（2003（平成 15）年度－2006（平成 18）年度）

[浜田宏]

研究代表者 若手研究（B）「社会構造の変動と不平等の数理社会学」（2005 年（平成 17）－2006 年（平成 18 年度）

#### 2006 年度

[海野道郎]

研究代表者 基盤研究 A：研究課題「廃棄物をめぐる人間行動と制度—環境問題解決の数理・計量社会学」、2003（平成 15）年度—2006（平成 18）年度（2005 年度：6,900 千円）

研究代表者 基盤研究 B(海外調査)：研究課題「オーストラリアの廃棄物問題—アデレード・メルボルンにおける多水準分析の試み」、2006（平成 18）年度—2008（平成 20）年度（2006 年度：1,500 千円）

[原 純輔]

研究代表者 萌芽研究：「学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」、130 万円

[佐藤嘉倫]

研究代表者 「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」、直接経費 2,940 万円、間接経費 882 万円

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究 B 「変動期における高校生のアスピレーションと社会意識の形成過程」（2006（平成 18）年度—2008（平成 20）年度）、直接経費 1,500 千円、間接経費 450 千円

研究分担者 萌芽研究 研究代表者：原純輔（東北大学） 「学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」（2006（平成 18）年度—2008（平成 20）年度）

研究分担者 基盤研究 B 研究代表者：大淵憲一（東北大学） 「公共事業政策の評価と合意形成の社会心理学的研究—手続き的公正理論の応用」（2003（平成 15）年度—2006（平成 18）年度）

## 2007 年度

[海野道郎]

研究代表者 基盤研究 B(海外調査)：研究課題「オーストラリアの廃棄物問題—アデレード・メルボルンにおける多水準分析の試み」、2006（平成 18）年度—2008（平成 20）年度（2006 年度：1,600 千円）

[原 純輔]

研究代表者 萌芽研究：「学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」、120 万円

[佐藤嘉倫]

研究代表者 「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」、

直接経費 3,270 万円、間接経費 981 万円

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究 B 「変動期における高校生のアスピレーションと社会意識の形成過程」(2006(平成 18)年度-2008(平成 20)年度)、直接経費 2,000 千円、間接経費 600 千円

研究分担者 萌芽研究 研究代表者:原純輔(東北大学) 「学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」(2006(平成 18)年度-2008(平成 20)年度)

[本郷正武]

研究分担者 基盤研究 (B) 研究代表者:好井裕明(筑波大学) 「被害当事者・家族のライフヒストリーの社会学的研究—薬害 HIV 感染被害問題を中心に」(2005(平成 17)年度-2007(平成 19)年度)

研究分担者 基盤研究 (B) 研究代表者:山田富秋(松山大学) 「『薬害 HIV』問題経験の社会学的研究—ナラティブ・アプローチから」(2007(平成 19)年度-2009(平成 21)年度)

研究分担者 基盤研究 (B) 研究代表者:長谷川公一(東北大学) 「持続可能な都市形成に与えるソーシャルキャピトルの高価の国際比較」(2007(平成 19)年度-2008(平成 20)年度)

研究分担者 基盤研究 (B) 研究代表者:長谷川公一(東北大学) 「地域社会における温暖化防止施策とコラボレーション」(2007(平成 19)年度-2009(平成 21)年度)

## 2008 年度

[原 純輔]

研究代表者 萌芽研究: 「学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」、70 万円

[佐藤嘉倫]

研究代表者 「現代日本の階層状況の解明—ミクロ・マクロ連結からのアプローチ」、直接経費 970 万円、間接経費 291 万円

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究 B 「変動期における高校生のアスピレーションと社会意識の形成過程」(2006(平成 18)年度-2008(平成 20)年度)、直接経費 2,300 千円、間接経費 690 千円

連携研究者 萌芽研究 研究代表者：原純輔（東北大学） 「学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」（2006（平成18）年度－2008（平成20）年度）

[浜田宏]

研究分担者 基盤研究B 研究代表者：高坂健次（関西学院大学） 「グローバルな富の再分配と主観的幸福の増大」（2008（平成20）年度－2010（平成22）年度）

[本郷正武]

研究代表者 若手科研（B） 「『薬害 HIV 訴訟』プロセスにおける当事者の社会的孤立の検討」（2008（平成20）年度－2010（平成22）年度）

研究分担者 基盤研究（B） 研究代表者：山田富秋（松山大学） 「『薬害 HIV』問題経験の社会学的研究－ナラティブ・アプローチから」（2007（平成19）年度－2009（平成21）年度）

研究分担者 基盤研究（B） 研究代表者：長谷川公一（東北大学） 「持続可能な都市形成に与えるソーシャルキャピタルの高価の国際比較」（2007（平成19）年度－2008（平成20）年度）

研究分担者 基盤研究（B） 研究代表者：長谷川公一（東北大学） 「地域社会における温暖化防止施策とコラボレーション」（2007（平成19）年度－2009（平成21）年度）

## （2）その他

### 2004 年度

[海野道郎]

事業推進担当者 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 7,530 万円

[原 純輔]

事業推進担当者・COE 人材育成オフィス長 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 7,530 万円

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 7,530 万円

総長裁量経費 「21 世紀 COE 事業等支援経費一本プログラム及び東北大

学の広報戦略経費一」、300万円。

[木村邦博]

事業推進担当者 21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費7,530万円

#### 2005年度

[海野道郎]

事業推進担当者 21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費7,450万円

研究代表者 カシオ科学振興財団研究助成金、「社会的ジレンマ問題の解決に関する行動科学的研究—水俣市における分別制度の形成・定着過程に学ぶ」、1,000千円

[原 純輔]

事業推進担当者・COE人材育成オフィス長 21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費7,450万円

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー 21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費7,450万円

[木村邦博]

事業推進担当者 21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費7,450万円

#### 2006年度

[海野道郎]

事業推進担当者 21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費7,831万円

[原 純輔]

事業推進担当者・COE人材育成オフィス長 21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費7,831万円、間接経費783.1万円

総長裁量経費 「グローバル化社会における不平等観の研究」、237万円

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー 21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費7,831万円、間接経費783.1万円



総長裁量経費 「グローバル化社会における不平等観の研究」、237 万円  
[木村邦博]

事業推進担当者 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 7,831 万円

#### 2007 年度

[海野道郎]

事業推進担当者 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 8,250 万円

[原 純輔]

事業推進担当者・COE 人材育成オフィス長 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 8,250 万円、間接経費 825 万円

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 8,250 万円、間接経費 825 万円

[木村邦博]

事業推進担当者 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 8,250 万円

#### 2008 年度

[原 純輔]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 7,860 万円、間接経費 2,358 万円

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 7,860 万円、間接経費 2,358 万円

申請者 日本学術振興会・国際学会等派遣事業 「Rational Choice of Career Aspiration under Structural Constraints: Comparison of Career Aspirations in East Asia — 第 103 回アメリカ社会学会における論文報告」 205,530 円

申請者 (財)学術振興野村基金 「日本・韓国・台湾における労働市場とキャリア形成の比較研究—第 1 回社会学フォーラムにおける論文報告と諸活動—」 20 万円

開催責任者 日本学術振興会・国際研究集会 「国際社会学会・社会学  
博士課程学生のための国際ラボラトリー」 金額未定

[木村邦博]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究  
拠点の世界的展開」、直接経費 7,860 万円、間接経費 2,358 万円

[浜田宏]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育  
研究拠点の世界的展開」、直接経費 7,860 万円、間接経費 2,358 万円

## V 教員による社会貢献（2004 年度～2008 年度）

### （1）政府・地方公共団体関係機関等の委員

海野道郎

2004 年 7 月 1 日－2006 年 6 月 30 日 仙台市廃棄物対策審議会委員

2006 年 7 月 1 日－2008 年 6 月 30 日 仙台市廃棄物対策審議会委員

2007 年 4 月 独立行政法人 日本学術振興会 特別研究員等審査会専  
門委員および国際事業委員会書面審査員

2007 年 5 月 1 日－平成 20(2008)年 3 月 31 日 大学共同利用機関法人  
情報・システム研究機構 統計数理研究所 「統計数理研究書共同利  
用体制外部評価委員」

2007 年 6 月 21 日－2008 年 3 月 20 日 独立行政法人国立環境研究所地  
球推進費 H-052 「ライフスタイル変革のための有効な情報伝達手段  
とその効果に関する研究」アドバイザー・ボード

原 純輔

2002 年 4 月－現在 (財) 日本性教育協会理事

2003 年 11 月－現在 社会調査士資格認定機構理事

2004 年 4 月－2008 年 3 月 松下国際財団研究助成選考委員

2006 年 8 月－現在 日本学術会議連携会員

佐藤嘉倫

1996 年 6 月－現在 東北地方ダム管理フォローアップ委員会委員

1999 年 9 月－2005 年 8 月 名取市環境審議会委員

2002 年 8 月－2004 年 3 月 宮城県循環型社会推進懇話会委員

2003 年 8 月 1 日－2005 年 7 月 31 日 日本学術振興会 特別研究員等

審査会専門委員

2005年1月31日－2006年12月31日 日本学術振興会 科学研究費  
委員会専門委員

2005年1月25日 科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金  
審査部会人文・社会系委員会特別推進研究審査意見書作成者

2006年8月20日－現在 日本学術会議連携会員

2008年8月1日－2009年3月31日 先端科学（FoS）シンポジウム事  
業委員会専門委員

## （２）公開講座等の講師

海野道郎

2004年6月25日 資源・素材学会 東北支部春季大会特別講演会（東  
北大学）総合テーマ「循環型社会の構築を目指して－社会科学の視点  
から」

2004年10月15日 ごみゼロ推進宮城大会 基調講演「社会的ジレン  
マからの脱出－循環型社会構築のための行動科学の一視点」（仙台市  
泉文化創造センター（イズミティ21））

2004年10月28日 宮城県仙台第二高等学校「一日大学」（宮城県仙  
台第二高等学校）「環境配慮行動はなぜ困難なのか－その本性と問題  
解決への道」、「環境配慮行動はなぜ困難か：環境問題と社会的ジレ  
ンマ」

2006年11月11日（土） 関西学院大学 21世紀COE特別研究「調査」  
於：KG大阪梅田キャンパス（梅田アプローズタワー14階）招待講義  
「公共財としての社会調査－公共財についての調査経験を通して」

2007年2月21日 エコ&エネルギー・ワークショップ講演「環境配慮  
行動の困難を越えて－環境問題と社会的ジレンマ」（東北電力仙台営  
業所）

佐藤嘉倫

2004年7月30日 東北大学文学部 オープンキャンパス 公開講義  
「協力行動はどのように社会に広がるのか？－コンピュータ・シミュ  
レーションへの招待」

2004年11月25日 仙台二高1学年「一日大学」講師（「公平な分配

はどう社会に広がるのか？ —コンピュータ・シミュレーションへの招待」)

2005年7月20日 東北大学100周年記念 第1回サテライトセミナー  
(名古屋) 講師 「日本社会の流動性と価値観のゆらぎ」

2006年2月10日 第5回東北大学100周年記念セミナー「生き方、老い方、死に方を科学する」講師「安心して冒険できる社会へ—新しい日本型雇用制度の可能性」

2007年1月13日 第7回東北大学100周年記念セミナー「きれいな子、無気力な子、挫折する子—親の力、教師の力、社会の力を考える」講師「将来が見えない若者たち—家庭・教育・労働市場の再構築」

2007年8月25日 東北大学100周年記念まつり「東北大名物教授のポケットセミナー」講師「将来が見えない若者たち—家庭・教育・労働市場の再構築」

2007年10月22日 慶応義塾大学21世紀COEプログラム多文化市民意識研究センター講演会講師「地球市民意識と不平等」

2007年12月1日 大東文化大学経済研究所第27回経済シンポジウム「格差社会の現実と展望—豊かな社会の実現に向けて」講師「格差社会論と社会階層論—格差社会論からの挑戦に込めて—」

2008年5月11日 財団法人メンタルケア協会 第107回メンタルケア・スペシャリスト養成講座(仙台会場) 講師「将来の見えない若者たち—家庭・教育・労働市場の再構築—」

木村邦博

2005年8月11日 宮城県高等学校社会科教育研究会第32回ワークショップ 共同講演(玉造荘)「高校生の眼に映る『学歴社会』—宮城県での継続調査から」

2008年7月30日 第47回東北地区私学教育研修会・生徒指導部会 講演(仙台ガーデンパレス)「高校生の規範意識の現状をどうとらえるか—『教育と社会に対する高校生の意識』第6次調査から—」

### (3) NPO・NGO法人・民間企業との協力関係等

海野道郎

2004年度—現在 財団法人損保ジャパン環境財団「損保ジャパンC

SOラーニング制度」 仙台地区助言者  
2007 年度 宮城県生活協同組合連合会「レジ袋有料化条例草案作成  
WG」アドバイザー

本郷正武

2003 年 2 月－現在 東北 HIV コミュニケーションズ 事務局次長

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2004 年度～2008 年度）

海野道郎

2003 年 4 月-2005 年 3 月 環境社会学会 監事

2003 年 11 月－2005 年 3 月 数理社会学会 第 5 回学会賞選考委員(委  
員長)

2005 年 4 月－2007 年 3 月 東北社会学会 機関誌『社会学研究』  
編集委員

2005 年 8 月－2007 年 7 月 東北社会学会 会長

2005 年 8 月－2007 年 8 月 廃棄物学会東北支部 副支部長

2006 年 11 月－2009 年 11 月 日本社会学会 財務理事

原 純輔

2003 年 7 月－2005 年 7 月 東北社会学会 会長

佐藤嘉倫

2002 年 7 月－2006 年 7 月 国際社会学会合理的選択部会理事

2003 年 11 月－現在 日本社会学会国際交流委員

2005 年 4 月－2007 年 3 月 数理社会学会 会長

2005 年 10 月－現在 日本社会学会将来計画特別委員

2006 年 7 月－現在 国際社会学会 理事

2006 年 7 月－現在 国際社会学会合理的選択部会長

2007 年 9 月－2009 年 3 月 数理社会学会第 7 回論文賞選考委員会委  
員

木村邦博

2005 年 4 月－2007 年 3 月 数理社会学会 監事

2006 年 4 月－現在 日本行動計量学会 理事

2007 年 10 月－現在 日本教育社会学会 編集委員

浜田宏

2004年4月－2006年3月 数理社会学会編集委員（『理論と方法』編集委員）

2007年9月－2009年3月 数理社会学会第7回論文賞選考委員会委員  
本郷正武

2007年7月－現在 東北社会学会理事

## **VII 教員の教育活動（2008年度）**

### **（1）学内授業担当**

#### **1 大学院授業担当**

教授 原純輔

計量行動科学特論 I 「社会階層研究の現状と課題」

課題研究（行動科学）

教授 佐藤嘉倫

数理行動科学研究演習 I 「自己組織性・ゲーム理論・エージェント・ベースト・モデル（1）」

数理行動科学研究演習 II 「自己組織性・ゲーム理論・エージェント・ベースト・モデル（2）」

課題研究

教授 木村邦博

計量行動科学研究演習 III 「家族・労働・ジェンダーと社会意識の計量分析」

計量行動科学研究演習 IV 「社会調査法への認知科学的アプローチ」

課題研究（行動科学）

准教授 浜田宏

数理行動科学研究演習 III 「社会現象への数理的アプローチ」

数理行動科学研究演習 IV 「社会現象のモデル化とコンピュータによる計算」

課題研究（行動科学）

#### **2 学部授業担当**

教授 原純輔

行動科学概論「社会調査の基礎」  
行動科学概論「社会調査の実際」  
行動科学基礎演習「行動科学の基礎技術」  
行動科学基礎実習「社会調査演習」  
行動科学基礎実習「多変量解析演習」  
行動科学各論「社会階層研究の現状と課題」  
行動科学演習「非定型データの処理・分析法」

教授 佐藤嘉倫

行動科学概論「マイクロ・マクロ問題入門」  
行動科学概論「ゲーム理論入門」  
行動科学基礎演習「行動科学の基礎技術」  
行動科学基礎実習「多変量解析実習」  
行動科学基礎実習「社会調査演習」  
行動科学演習「自己組織性・ゲーム理論・エージェント・ベ  
ースト・モデル（１）」  
行動科学演習「自己組織性・ゲーム理論・エージェント・ベ  
ースト・モデル（２）」

教授 木村邦博

英語原書講読入門「英語文献による人文社会科学入門Ⅰ」  
行動科学基礎実習「多変量解析演習」  
行動科学基礎演習「行動科学的研究の基礎：ライフコース研究を通  
して」  
行動科学基礎演習「行動科学の基礎技術」  
行動科学基礎実習「社会調査演習」  
行動科学演習「家族・労働・ジェンダーと社会意識の計量分析」  
行動科学各論「日常生活のクリティカル・シンキング」  
行動科学演習「階層意識の計量分析」

准教授 浜田宏

行動科学基礎演習「行動科学の基礎技術」  
行動科学各論「階層と不平等のメカニズム」  
行動科学演習「社会現象への数理的アプローチ」  
行動科学演習「社会現象のモデル化とコンピュータによる計算」

助教 本郷正武

行動科学基礎演習 「行動科学の基礎技術」

行動科学基礎演習 「行動科学的研究の基礎：ライフコース研究を通して」

### 3 共通科目・全学科目授業担当

なし（2008年度）

#### (2) 他大学への出講（2004～2008年度）

海野道郎

2007年9月 明治学院大学心理学部非常勤講師「現代社会と心理」

原純輔

2005年4月－現在 放送大学「社会調査」「社会階層と不平等」

佐藤嘉倫

2007年8月 青森公立大学

2008年12月 青森公立大学

木村邦博

2004年4月－2004年8月 東北学院大学「社会学」

2006年4月－2006年8月 東北学院大学「社会学」

2007年4月－2007年8月 東北学院大学「社会学」

2007年9月 学習院大学大学院法学研究科「共同基礎演習Ⅰ」

浜田宏

2008年4月－2011年3月 放送大学「幸福の社会理論」（分担講師）

本郷正武

2007年4月－7月 東北薬科大学「現代の社会Ⅲ」

2008年4月－7月 東北薬科大学「現代の社会Ⅲ」

2008年4月－7月 尚絅学院大学「社会ネットワーク論」